

# 議事録

## 第2回 被災した子どもの居場所づくり検討委員会

日付 2024年3月6日

時刻 17:00 ~ 19:00

会議の開会宣言者 有岡 仁志(一般社団法人 ガチャック)

### 出席者

中川 健 (NPO法人場づくりネット) / 堀田 晶 (古本なるや) / 有岡 仁志 (一般社団法人 ガチャック) / 瀬川 恭平 (一般社団法人 ガチャック) / 澤田 啓輔 (一般社団法人 ガチャック) /

### 報告

澤田 啓輔 (一般社団法人 ガチャック)より

- 被災した子どもの居場所づくり事業のホームページの立ち上げを報告。  
( <https://koko.gachok.toyama.jp/> )

大枠ができあがった段階で、制作完了している状況ではないが、緊急性のある事業の為、先行で公開すること

した。

今後は、ホームページ内容の随時更新とSEO対策、また導線として一般社団法人ガチャックのホームページに

紐づけ作業を行っていく。

- 富山県内において、様々な居場所活動をしている団体「一般社団法人 PONTEとやま」  
( <https://ponte-toyama.com/> )

と連携。

「被災地と支援者がどうやって繋がるか」ということを話し合い、現在、被災地に入っている支援団体と連携し情報共有ができる体制を作っていけないかを検討中。

- 富山に拠点を置く食糧支援団体「NPO法人 フードバンクとやま」  
( <http://foodbank-toyama.com/> )

と連携し、現状把握を行える体制づくりを行う。

「被災地の子どもの居場所づくり」という大きな枠組みの中で活動していくにあたって、ガチャック単独で活動していくよりは、様々な団体との連携が必要になってくると考えている。

### 検討

#### 1 被災した子どもの利用状況について

現在居場所に来ている子どもたち(概ね小学生~中学生ほどの年齢)は親の希望があり居場所として利用している。

この子どもたちが最初に何の理由もなく自らの意思において居場所利用とすることは考えにくい。被災した子どもたちが居場所利用に繋がる為には、まず親への情報提供は必須となる。

ただ親との繋がりを作り始めると、親も含めた複合的な支援の必要性が見えてくる。そうなってくると「被災した子どもの居場所づくり」からずれてしまうのではないだろうか。

その為「被災した子どもの居場所づくり」はあくまで子どもを中心とするようにし、親の支援は副次的なものとして位置づけることとし、被災した子どもに関わる支援は、他の団体との連携によって解決を目指していきたい。

#### 2 被災した子どもと親との関係性について

実際に、被災地において、親側の失職による親の苛立ち、生活の変化によるストレスから親から子どもに対する虐待行為なども確認されている。この課題については、元々はこういった傾向があったからではあると思うが、ギリギリのところまでバランスをとっていたものが、被災によって表面化し、子どもが居場所を失っている。

### 3 居場所の位置と、形について

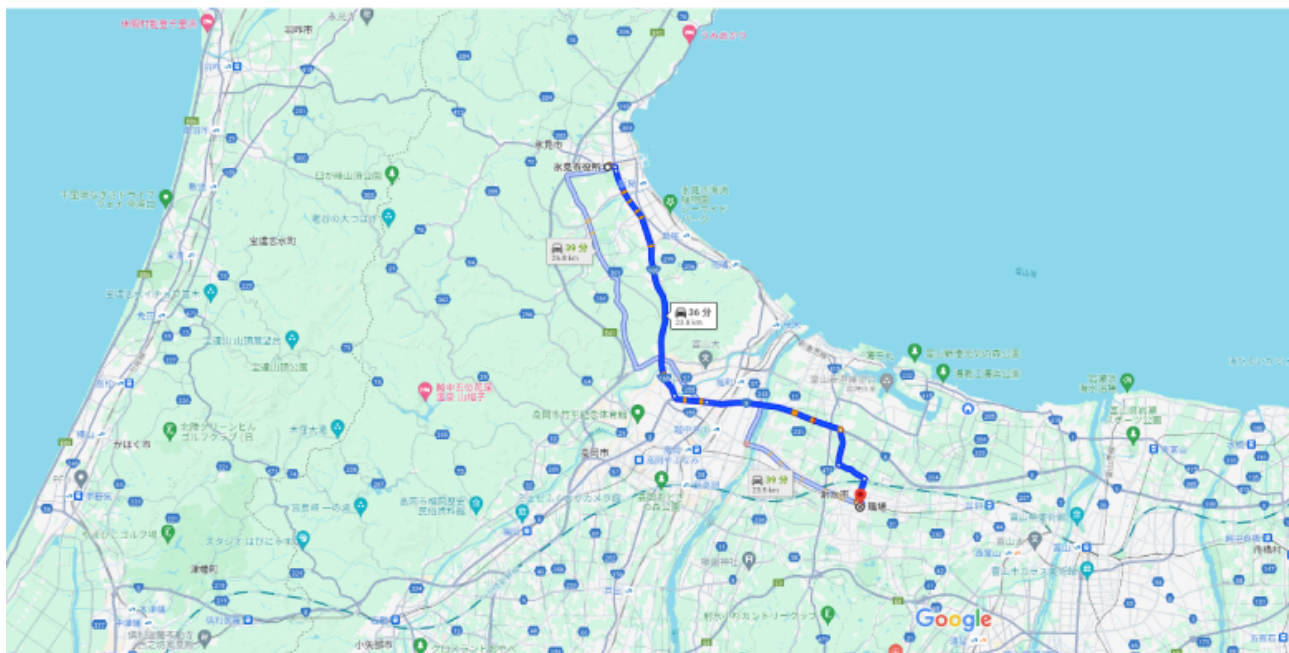
現在はガチョック(富山県射水市戸破1893)を居場所として開設し、伏木方面からの利用はあるものの、親との関係性が悪い、または公共交通機関を利用して通ってくるのが難しい子どもに対してのアプローチができていないことが課題としてある。

富山県内において、家屋の倒壊などの目立った被害があった場所として

#### ・氷見市

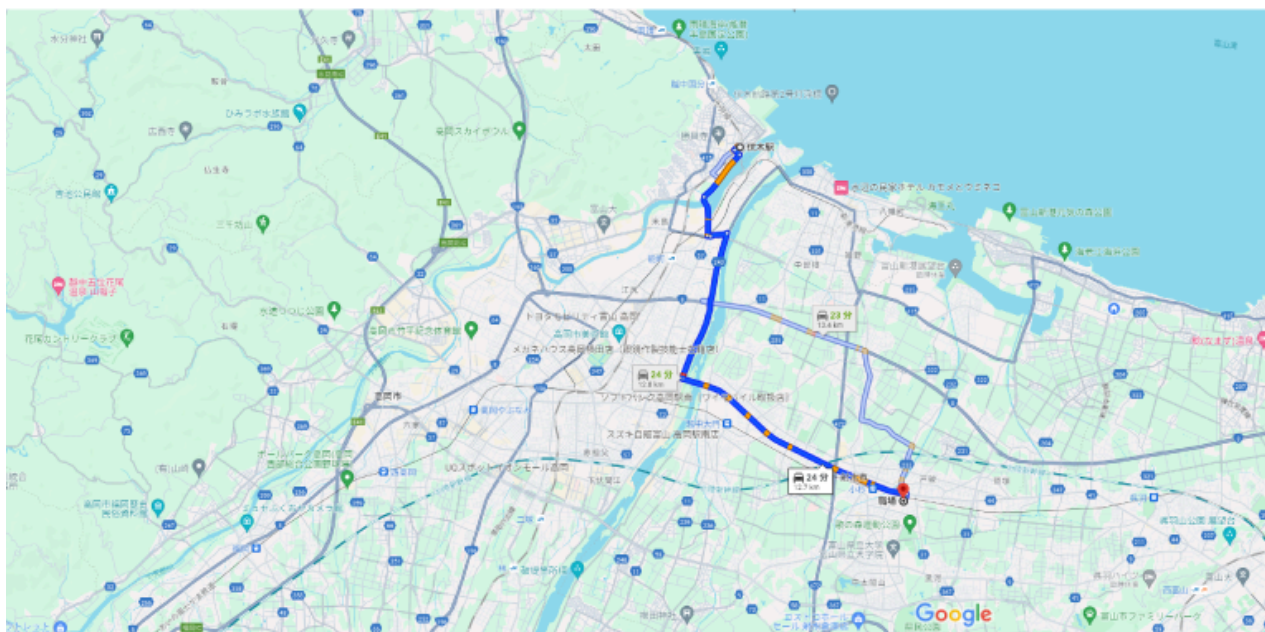
Google 氷見市役所、〒935-0025 富山県氷見市鞍川1060 から 職場 (ガチョック)

車 23.8 km、36 分




🚗 国道160号と富山高岡バイパス/国道8号 経由 36分  
23.8 km  
交通状況を反映した現時点の最速ルート

#### ・伏木地区



地図データ ©2024 1 km


**県道243号と県道44号 経由** **24分**  
 交通状況に基づいた現時点の最適ルート **12.7 km**  
 ト

の2か所があるが、それぞれ車で20分以上。居場所までは基本的に親が送迎し、その後仕事に行くなどの利用方法となっている。

現在開所している居場所は富山県内において人口が多い富山市と高岡市の真ん中に位置しており、電車によるアクセスも含めて、利用しやすい位置と言える。



地図データ ©2024 2 km

**遅延情報**

この地域は交通量が少なめ

問題となる道路情報はありません。交通情報はここに表示されます。

被災地の子どもの居場所としては機能しやすいが、「被災がひどく支援が届かない地域の子ども」からはやや距離があるといった課題も抱えている。

このことから石川県や新潟県も被災していることは確かだが、現在設置している居場所の位置(富山県)では全ての被災した子どもが居場所を利用できるというわけでは無いことが分かる。

もし、複数個所に「被災した子どもの居場所」があり、その居場所同士が連携をとれている、または支援体制ができているような状態であるならば、被災した子どもにとって良い状況だと言えないだろうか。

その可能性を踏まえて、まずはそれぞれの役員が被災地の支援者と連絡をとれる関係性を作り、次回の検討委員会において報告することとしたい。

また更なる居場所関係者や子どもの関係者を検討委員会に追加し、議論していきたい。

#### 次回の会議

2024年3月13日